

スロバキア語のシンタグマの形式と機能

— 2 要素統合体の文法構造と機能構造の
諸タイプを中心として —

本 城 二 郎

1. 序論

“スラブの臍”と呼ばれるスロバキア語は、多くの汎スラブ語的特徴を持つ。中でもシンタグマ（2要素統合体）のレベルでは、その特徴が顕著である。本論は、スロバキア語におけるシンタグマの形式的特徴と機能的特徴を抽出し、汎スラブ語的特徴の一端を明らかにすることを目指す。具体的には、①限定的シンタグマ、②叙述的シンタグマ、③並列的シンタグマ、の3タイプが関与的となり、その文法構造およびそれに対応する機能構造の特徴を明らかにすべく、スロバキア語における諸例の構造分析を試みる。その際、理論的背景としては、主に20世紀構造言語学グループの一つプラチスラヴァ言語学サークルのE. Paulinyが提起しJ. RužčkaおよびJ. Oravecが体系化した統合論（シンタグマティックス）に基づき、プラハ言語学派の機能的文構成（FSP*¹）が援用され、シンタグマ理論の有効性が検証される。

2. スロバキア語のシンタグマ（2要素統合体）のタイプと文法・機能構造

シンタグマ（スロバキア語名：Syntagma、英語名：Syntagm、日本語名：シンタグマ/統合体）とは、「実際の現実との何らかの関係を反映する二つまたは幾つかの意味的自立語の線条的・構造的に組織された結合/統合」*²で、構造論的観点からは、“意味的自立語”＝要素、“線条的・構造的有機結合/統合”＝構造の置き換えが可能なことから、「二つ（以上）の意味的自立要素の並列・連結により一つの構造を組織する結合体/統合体」と解釈される。ここでは、意味的自立語は名詞、形容詞、代名詞、数詞、動詞、副詞が属する語グループで、それは前置詞、接続詞、小詞が属する意味的非自立語に対して示差的対立関係にあり、相互の可能な組合せによりシンタグマの多様なタイプが形成される。現実的には、“限定”“叙述”“並列”の3種のシンタグマ形式が抽出され、対応する文法形式も、名詞（句）/形容詞（句）/動詞（句）/副詞（句）：限定的シンタグマ、文：叙述的シンタグマ、連語/連句/連文：並列的シンタグマと、多様な言語レベルに渡っている。そのため、シンタグマを扱うシンタグマティックス（統合論）は、（発話）文を専ら扱う統語論（シンタクス）より扱う対象が広く、理論上は、示差的対立関係にあり専ら語彙論を扱うパラディグマティックス（連合論）とのみ区別されることになる。

シンタグマ（2要素統合体）のタイプ分類には、要素統合を特徴づける主要関係の抽出および列挙が求められる一方、シンタグマを構成する統合要素間の意味的“従属性”さらには統合手段の文法的“カテゴリー性”の2類が関与的である。特に前者の“従属性”を基準にした場合、限定名詞句（名詞的シンタグマ）/結合価動詞句（動詞的シンタグマ）および述語文（文シンタグマ）、さらに並列接続語表示の連語/連文（いずれも並列的シンタグマ）という3タイプのシンタグマに分類可能である。以下、本論では、品詞・統語要素（N/V/Adj/Ad/Num/Int、S/V//O/C/Ad、N/Sent/Cl/Conj）から構成される文法構造と機能要素（Th、Tr、Rh）から構成される機能構造との比較分析を通じて、上記シンタグマ3タイプの特徴の列挙・記述を試みる。

2. 1. 限定的シンタグマ（名詞的シンタグマと動詞的シンタグマ）の構造

限定的シンタグマは、2要素、つまり事物と一時的でない属性との間にある種の関係性が成立する統合体の一つで、要素間の統合は“限定/補足”の意味関係により特徴づけられる。その際、意味的に限定/補足される要素が主要素となるのに対して、意味的に限定/補足する要素は従属要素であると見なされる。“限定”に基づき統合される要素ペアすなわち限定的シンタグマは、主要素の品詞別に従い、次の2タイプに区分される。

機能的には、この限定的シンタグマでは、“限定/補足”される要素が Tr 要素に、“限定/補足”する要素が Rh 要素になると解釈される。（非発話となるため Th 要素は非実現）

i. （動詞が主要素となる）動詞的シンタグマ

ii. （名詞/形容詞/副詞/5以上の不変化数詞/名詞役割間投詞が主要素となる）

名詞的シンタグマ^{*3}

まず、i タイプの動詞的シンタグマにおいては、主要素の動詞が従属要素の副詞により意味的に限定されるか従属要素の名詞により意味的に補足されるかのいずれかの関係が成立する。2要素間の統合性は、前者つまり副詞→動詞の意味的限定関係が副詞の動詞への“付加”により、後者つまり動詞←名詞の意味的補足関係が（前置詞無/前置詞付）格被支配名詞の動詞への“補足”および動詞の結合価支配により、それぞれ表示される。

● “付加”副詞による動詞的シンタグマの例：可変語順タイプ

・統合手段：従属副詞の“付加”

☞^{*4} 副詞による擬似的従属要素マーキング？

(1) *vedome lo*^{*5} *sútažit*（目標意識を持って競争する）

Adv（意識的に） Inf（競争する）

☞ “付加”副詞 *vedome lo*

● “結合価”支配動詞+“補足”名詞による動詞的シンタグマの例：可変語順タイプ

・統合手段：主要動詞による“結合価”格支配

☞ 結合価格支配動詞による

(2) *hovorit pravdu*（本当のことを言う）

☞ 擬似的主要素マーキング？

Inf（言う/話す） Acc（真実を）

☞ Acc（対格）結合価支配動詞 *hovorit*

(3) *pomáhat bližnemu*（隣人を助ける）

Inf（助ける） Dat（隣人に）

☞ Dat（与格）結合価支配動詞 *pomáhat*

動詞的シntagマにおける特異なバリエーションの一つとして、*chcem odísť* (私は出て行きたい) タイプの助動詞+不定詞形式による相互限定的シntagマ*⁶が挙げられる。ここで“相互”というのは、既述のように、形式的主-従関係と対応する意味的被限定-限定関係/被補足-補足関係により特徴づけられる限定的シntagマにおいて、両要素つまり助動詞と不定詞が同時に相互に対応しない要素役割を果たすことによる。つまり、助動詞に非対応の形式的主要語&意味的限定語役割が、不定詞に非対応の形式的従属語&意味的被限定語役割が、それぞれ担われ、役割の相互交換が発生することに起因すると見なされる。歴史的には、対称/対応>非対称/非対応への変化に伴い、(本動詞>補助動詞>助動詞)という助動詞化への方向と、それと平行した(名詞的補語>動詞的補語>不定詞)という不定詞化への方向が推定される。ちなみに、現代スロバキア語では、多様な助動詞/補助動詞の形式的発達が顕著に見られる。その際、助動詞プロパーとして時制/法のための複合形式を構成する *byť* 以外に、例えば、起動/過程動詞(～始まる/始める、～で残る、～し終わる等)、制限動詞(～しそうだ等)、法動詞(～したい、～しなければならない、～できる等)その他の補助動詞が頻用されつつある。

なお、本来的には動詞的シntagマであったこの相互限定的シntagマにおいては、機能的には、“限定”される本動詞要素起源の主要要素役割助動詞が、“限定”する目的語/補語名詞要素起源の従属要素役割不定詞に意味的に“限定”される主要要素ではなく、それ(つまり不定詞)を“限定”する従属要素 Tr 要素となるのに対して、“限定”する従属要素役割不定詞は、“限定”される本動詞起源の主要要素役割助動詞を意味的に“限定”する助動詞ではなく、それ(つまり助動詞)に“限定”される主要要素 Tr 要素となり、要素間に主従関係が生まれ、その結果、Tr 要素内で分離が起こることになる。最終的には、Tr 要素全体のうち本来的に(つまり動詞的シntagマとして)比較的より“限定”される部分が TrPr 要素、比較的より“限定”する部分が Tr 要素になると解釈される。

●相互限定的シntagマ：

・統合手段：(起動/制限/法) 助動詞+不定詞形式の使用

(4) *Príroda sa začína prebúdzat' do novej jari.* ⇨ 起動動詞 *zачat'* (始める) + 不定詞
(自然は、新しい春に目覚め始めつつある)

(5) *Chcem by som ešte niečo dodať.* ⇨ “意志”の法動詞 *chciem'* (欲する) + 不定詞：～したい
(私は、さらに何か加えたいと思う)

次に、ii タイプの名詞的シntagマにおいては、主要要素である名詞/形容詞/副詞/5以上の主格・対格数詞/名詞役割間投詞が従属要素としての名詞/形容詞/副詞により意味的に限定される関係が成立する。2要素間の統合性は、(動詞派生の)主要名詞/主要形容詞による従属名詞の“結合価”格支配、5以上の主格・対格数詞による従属名詞の属格(複数)“結合価”支配、主要名詞への従属形容詞の数・性・格における“一致”、(動詞派生の)主要名詞/形容詞/副詞による従属副詞の“付加”支配、主要名詞役割間投詞へ

の従属形容詞の単数・中性形での“一致”などにより、それぞれ表示される。

●主要名詞＋従属名詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：主要名詞による“結合価”格支配

(6) *úprava ciest* (旅行の手配)

N (手配) Gen (旅行 [複数] の) ⇨ Gen (属格) 結合価支配名詞 *úprava*＋従属名詞 *ciest* <*cesta*

<名詞化&対格→属格結合価格支配変更> *úpraviť*^{Acc} *cesty* (旅行を手配する)

V (手配する) Acc (旅行を) ⇨ Acc (対格) 結合価支配動詞 *upraviť*

(7) *otáčanie kolesom* (車輪の回転)

N (回転) Instr (車輪で) ⇨ Instr (具格) 結合価支配名詞 *otáčanie*＋従属名詞 *kolesom* <*koleso*

<名詞化&結合価格支配保持> *otáčať*^{Instr} *kolesom* (車輪を回転させる)

V (回転させる) Instr (車輪で) ⇨ Instr (具格) 結合価支配動詞 *služiť*

●従属形容詞＋主要名詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：従属形容詞の“一致”

(8) *dobrý človek* (良い人)

Adj (良い) N (人/人間) ⇨ Adj-Nom (主格) “一致” 従属形容詞 *dobrý*＋N-Nom (主格) 主要名詞

>主要名詞の変化&従属形容詞の一致> *s dobrými ľuďmi* (良い人々と共に)

Prep (～と共に) Adj-Instr (良い) N-Instr (人/人間により)

⇨ Adj-Instr (具格) “一致” 従属形容詞 *dobrymi* <*dobrý*＋N-Instr (具格) 主要名詞

●主要名詞＋従属副詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：従属副詞の“付加” (動詞派生の主要名詞による“付加”支配)

(9) *cesta domov* (家への道)

N (道) Adv (家へ) ⇨ “付加” 従属副詞 *domov*

<名詞化> *cestovanie* <名詞化&副詞“付加”の保持> *cestovať*^{Adv} *domov* (家へ回転させる)

V ((動いて) 行く/旅する) Instr (森を通して)

⇨ 副詞“付加”支配動詞 *cestovať*

●従属副詞＋主要形容詞による名詞的シンタグマの例：無標語順タイプ

・統合手段：従属副詞の“付加”

(10) *veľmi užitočný* (とても有益な)

Adv (とても) Adj (有益な)

⇨ “付加” 副詞 *veľmi*

●主要形容詞＋従属名詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：主要形容詞による“結合価”格支配

(11) *podobný*^{Dat} *bratovi* (兄弟に似た)

Adj (似た) Dat (兄弟に)

⇨ Dat (与格) 結合価格支配形容詞 *podobný*

●5以上の主格・対格数詞＋従属名詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：主要名詞役割の5以上数詞による属格複数“結合価”格支配

(12) *pět^{+Gen-Pl} strojov* (5つの機械<機械の5つ)

Num (5) Gen-Pl (機械 [複数] の) ⇨ Gen-Pl (属格複数) 結合価支配数詞 *pět*+従属名詞 *strojov*<*stroj*

●従属副詞+主要副詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：従属副詞の前置“付加”

(13) *velmi dobre* (とても良く)

Adv (とても) Adj (良く) ⇨ “付加”副詞 *velmi*

●不定数詞+従属名詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：副詞役割不定数詞による属格“結合価”格支配

(14) *mnoho^{+Gen} práce* (多くの仕事<仕事の多く)

Num (多く/沢山) Gen (仕事の) ⇨ Gen (属格) 結合価支配不定数詞 *mnoho*+従属名詞 *práce*<*práce*

●従属形容詞+主要名詞役割間投詞による名詞的シンタグマの例：固定語順タイプ

・統合手段：従属形容詞の単数・中性形での“一致”

(15) *večné jaj!* (絶えざる“痛い/嗚呼”!)

Adj (絶えない) Inter-j-Neut. Sing (痛い/嗚呼)

⇨ Neut. Sing (中性単数) 従属形容詞 *večné*<*večný*+主要名詞役割間投詞

Cf. *jajčat' věčne* (絶え間なく呻く) ⇨ “付加”副詞 *věčne*による動詞的シンタグマ

2. 2. 叙述的シンタグマ (文シンタグマ) の構造

叙述的シンタグマは、2要素、つまり人/事物と一時的な行為/状態/属性との間のある種の関係性に基づく統合体であり、要素間の統合は“叙述”の意味関係により特徴づけられる。一時的な行為/状態/属性が時制形を持つ定動詞またはバリエントを持つ定動詞+名詞/形容詞で、人/事物が名詞/代名詞で、それぞれ表示される。両要素が異種成分から成り、それら要素の多様な組合せからシンタグマ形式の多様なバリエントが形成されることになるが、共通項である[名詞-定動詞]によるシンタグマ形式が基本形となる。叙述的シンタグマは、通常(無標で)文を成立させることから、文シンタグマと呼ばれ、その結果、[主語-述語]が基本シンタグマ形式となる。意味的には、“叙述”性と“限定/補足”性とが反比例の関係にあることから、叙述的シンタグマには“限定/補足”における主従関係が現れない一方、“叙述”における主従関係が成立し、主語が叙述される主要素に、述語が叙述する従属要素に、それぞれ対応することになる。“叙述”に基づき統合される要素ペアとしての叙述的シンタグマは、主要素である主語の表示性に従い、二要素文シンタグマ/単一要素文シンタグマの2タイプに大別される。二要素文シンタグマは、従属要素である述語の動詞性に従い、二要素動詞文シンタグマ/二要素繫辞文シンタグマの2タイプに、それに加え、二要素動詞文シンタグマは、述語動詞の定性(すなわち定動詞か不定動詞か)に従い、二要素定動詞文シンタグマ/二要素準動詞文シンタグマの2タイプに、さらに、二要素繫辞文シンタグマは、繫辞定動詞の有無に従い、二要素繫辞文シンタグマ/二要素同格文シンタグマに、それぞれ下位分類が可能である。

機能的には、叙述的シンタグマにおいては、“叙述”する要素が Tr-Rh 要素に、“叙述”される要素が Th 要素になると解釈される。

i. (主語表示の) 二要素文シンタグマ

- A. 二要素動詞文シンタグマ
 - a. 二要素定動詞文シンタグマ
 - b. 二要素準動詞文シンタグマ
- B. 二要素繫辞文シンタグマ
 - a. 二要素繫辞文シンタグマ
 - b. 二要素同格文シンタグマ

ii. (主語非表示の) 単一要素文シンタグマ

まず、(主語表示の) i タイプの二要素文シンタグマに関しては、全て、その 2 要素結合性は、(主要素である) 主語への (従属要素である) 述語動詞の人称・数・性 (・格) における“一致”により表示される。

●二要素定動詞文シンタグマ (i Aa) の例: 可変語順タイプ

- ・統合手段: 定動詞の“一致” ⇨ 定動詞による従属要素マーキング

(16) *Robotník pracoval*⁶. (男性労働者は働いていた)

N-3. Sing-Mas (男性労働者は) V-3. Sing-Mas (働いていた)

⇨ V-3. Sing-Mas (3 人称単数男性) “一致” 定動詞 *pracoval*

●二要素準動詞文シンタグマ (i Ab) の例: 固定語順タイプ

- ・統合手段: 準動詞の“一致”

(17) *Fajčit' zakázané!* < *Fajčit' je zakázané!* (タバコを吸うのは禁止されている)
(喫煙禁止!)

⇨ 二要素繫辞文シンタグマ (i Ba タイプ)

Inf=N (タバコを吸うことは) Vpart-Sing-Neut-Nom (禁止された)

⇨ Vpart-Sing-Neut-Nom (単数男性主格) “一致” 準動詞 *zakázané*

●二要素繫辞文シンタグマ (i Ba) の例: 可変語順タイプ

- ・統合手段: 繫辞定動詞の“一致”

(18) *Voda je tekutá.* (水は液状です) ⇨ *Voda tečie.* (水は流れてる) ⇨ 二要素定動詞文

N-3. Sing-Fem-Nom (水は) V-3. Sing (～です) V-Sing-Fem-Nom (液状の)

⇨ V-3. Sing (3 人称単数) “一致” 繫辞定動詞 *je* & V-Sing-Fem-Nom (単数女性主格) “一致” 準動詞 *tekutá*

●二要素同格文シンタグマ (i Bb) の例: 固定語順タイプ

- ・統合手段: 同格語の“一致”

(19) *Bijem sa s bratancom, rovesníkom.* = *Bijem sa bratancom, je mojím rovesníkom.*

(私は同年代の従兄弟と戦っている) (私は従兄弟と戦っているが、彼は同年代だ)

N-Sing-Mas-Instr (従兄弟と) N-Sing-Mas-Instr (同年代の) ⇨ 並列文シンタグマ

⇨ N-Sing-Mas-Instr (単数男性具格) “一致” 同格語 *rovesníkom*

他方、(主語非表示の) ii タイプの単一要素文シンタグマについては、スラブ語では不定詞文が汎用されることから、要素統合性は、“ ϕ 主語不定詞の使用”により表示される。

叙述的シンタグマにおける特異なバリエントの一つに、*vidieť/počuť, že* ~ (～は見える/聞こえる) タイプの不定詞文シンタグマ^{*7}がある。このシンタグマは、無主語で単一要素つまり不定詞(句)のみから構成されることから、**非人称不定詞文^{*7}**とも呼ばれ、単一要素文を実現する。その際、不定詞要素への *byť* タイプ定動詞要素の前置付加可能性の基準に従えば、スラブ語内において、現在形φ付加&過去形付加のスロバキア語は、東西の両極、つまりφ付加の東スラブ語(特にロシア語)と義務的付加のゲルマン化スラブ語(特にチェコ語)との中間位置を占めることになる。既述で類似の助動詞+不定詞形式による**相互限定的シンタグマ**とは異なり、この不定詞文シンタグマは、非人称で主語項を欠くものの、(定動詞+)不定詞形式に基づくことから、叙述的シンタグマの一種と見なされる。なお、このタイプは、不定詞部分がもっぱら“感覚知覚”の共有意味特徴を持つことから、それを持たず発話文脈に依存し“喚情”、“命令”、“要求”、“驚き”などを表示する他のタイプの不定詞文シンタグマとは厳密に区別される。さらに特異なバリエントの一つには、動詞転義の**間投詞文シンタグマ**が挙げられる。

●単一要素不定詞文シンタグマ(ii)の例：固定語順タイプ

- ・統合手段：“φ主語不定詞の使用”

(20) *Nevidieť, že by ťa to trápilo.*

(それで君が苦しむことになるのか分からない)

Inf (見える/分かる)

☞ 単一要素“感覚知覚”文シンタグマ(iiタイプ)

極めて特殊な単一要素文シンタグマの一つとして、(不変化動詞へと転義した)不変化間投詞による文シンタグマが挙げられるが、体系化されない周辺的な現象と見なされることから、その使用は専ら口語に限られる。

●単一要素間投詞文シンタグマ(ii)の例：可変語順タイプ

- ・統合手段：“φ主語不変化間投詞の使用”

(21) *Šup do postieľky.* (小ベッドまでズドン)

Interj (ズドン) ☞ φSubj. Interj “φ主語不変化間投詞 *šup*”による 単一要素文シンタグマ(iiタイプ)

2. 3. 並列的シンタグマ(連語・連文シンタグマ)の構造

並列的シンタグマは、文中で“等価”の関係にある2つまたは数個の要素の間にある種の関係性が成立する統合体の一つであり、それら要素間の統合は“並置”の意味関係により特徴づけられる。その際、並置される要素間には、同品詞/同語類等の関係すなわち連合論的“等価”関係が成立するものの(統合論的)主従関係は成立しない。その結果、このシンタグマは、全体として他の(限定的/叙述的)シンタグマ内の要素となるか、または他の(限定的/叙述的)シンタグマを要素として統合するのかのいずれかの方向で実現されることになる。“並置”に基づき統合される要素ペアすなわち並列的シンタグマは、要素となる品詞/語類の相違に基づき、次の2タイプに区分される。

機能的には、並列的シンタグマにおいては、“並置”する統合手段が TrPr-Tr 要素に、

“並置”される要素が Rh-RhPr 要素になると解釈される。(非発話では Th 要素は非実現)

- i. (名詞/動詞/や名詞句/動詞句の結合により成立する) 連語・連句的シンタグマ
- ii. (従属節/文の結合により成立する) 連節・連文的シンタグマ

まず、i タイプの連語・連句的シンタグマにおいては、2 要素間の統合性は、相互等価性を前提に、並列接続詞 (または付帯的前置詞) の使用/省略並置により表示される。

次に、ii タイプの連文的シンタグマでは、2 要素間の統合性は、相互等価性を前提に、並列接続詞 (または付帯的分詞) の使用または省略—パラタクシス—により表示される。

●連語名詞的シンタグマ (i) の例：可変語順タイプ

- ・統合手段：並列接続詞の使用

(22) *Otec a syn*^{*5} *pracovali v tej istej továrni.*

(父と息子は、同じ工場働いている)

N-Nom (父は) Conj. (～と) N-Nom (息子は) ☞ 二要素定動詞文シンタグマ & “並列”接続詞 a

●連語動詞的シンタグマ (i) の例：可変語順タイプ

- ・統合手段：並列接続詞の使用

(23) *Žiaci píšú, čítajú, kreslia a počítajú.* ☞ 二要素定動詞文シンタグマ & “並列”接続詞 a

(生徒達は、書き、読み、描き、(そして) 計算している)

V-3.PI (書いている) V-3.PI (読んでいる) V-3.PI (描いている) V-3.PI (計算している)

次に、ii タイプの連文的シンタグマでは、2 要素間の統合性は、相互等価性を前提に、並列的接続詞 (または付帯的分詞) の使用/省略並置 (パラタクシス) により表示される。

●連節的シンタグマ (ii) の例：可変語順タイプ

- ・統合手段：並列接続詞の使用

(24) *Povedal, že sa už nevráti a že nebude prekážať.*

(彼は、もう戻ってこないし妨害しないと言った)

Conj-Acc (～ということを) conj (そして/～し) Conj-Acc (～ということを)

☞ 二要素定動詞文シンタグマ & “並列”接続詞 a

●連文的シンタグマ (ii) の例：可変語順タイプ

- ・統合手段：並列接続詞の使用

(25) *Dora vyloží jedlo a Pavo premôže aj to.*

(ドラは食べ物を落として、パヴォはそれも掴む)

V1 (ドラが食べ物を落とす) conj (そして/～て) V2 (パヴォがそれを掴む)

☞ 2×二要素定動詞文シンタグマ & “並列”接続詞 a

並列的シンタグマにおける特異なバリエーションの一つには、限定的シンタグマ形式の縮約化並列的シンタグマ^{*6}が挙げられる。その中でもとりわけ、名詞または独立代名詞が要素の場合、その接続 (統合) 手段としては、稀で文語的ながら、付帯的前置詞 s/so (～と共に) の使用が慣用的である一方、述語が要素の場合には、同じく稀で文語的ながら、

(性数不変化の) 付帯的分詞-*úc/iac/ac* (～しながら) の使用が広く確認されている。

機能的には、縮約化並列的シンタグマにおいては、“並置”する統合手段つまり接続要素が *TrPr-Tr* 要素に、“並置”される要素が *Rh* 要素となるが、*TrPr-Tr* 役割の接続要素が付帯的前置詞/付帯的分詞となったことにより、要素間に“限定”の主従関係が生じ、その結果、*Rh* 要素の分離が発生する。最終的には、“並置”する接続要素が *TrPr-Tr*、“並置”される要素のうち“限定”される部分が *Rh* 要素、“限定”する部分が *RhPr* 要素になると解釈される。なお、接続詞は、*Tr* 要素から形式的に分化した *TrPr* 要素と見なされる。

●縮約化並列的シンタグマ：

◎縮約化連語名詞的シンタグマ (i) —バリエント—の例：固定語順タイプ

・統合手段：付帯的前置詞の使用

(26) *Otec so synom prichádzajú.* ☞ 二要素定動詞文限定的シンタグマ形式&付帯的前置詞 *so*
(父と息子は、来つつあります)

N-Nom (父は) *Prep* (～と共に) *N-Instr.* (息子)

◎縮約化連語動詞的シンタグマ (i) —バリエント—の例：固定語順タイプ

・統合手段：付帯的分詞の使用

(27) *Janko šiel plačúc.* ☞ 二要素定動詞文限定的シンタグマ形式&付帯的分詞-*úc / iac / ac*
(ヤンコは、泣きながら立ち去った)

Vpast-3. Sing-Mas (行った/立ち去った) *Vpart* (泣きながら)

(注) ※¹ **FSP** (機能的文構成) とは、文の *Th* (テーマ/主題) -*Tr* (移行/連結) -*Rh* (レーマ/題述) 分割のことで、文要素が文中で果たす伝達機能 (FSP 機能) に応じて配列される文構成を意味する。無標では、主要な要素配列である *Th-Tr-Rh* 語順により伝達価値の漸進的な発展に向かい、その結果、FSP 要素基本配列 (略して FSP 基本配列) を実現することになる。なお、各要素の詳細は、Svoboda (1989) を参照。

FSP 基本配列： *ThPr-(ThPro-)Th-DTh-TrPr-(TrPro-)Tr-Rh-RhPr*

※² *Ej* 所収該当項目 “*Syntagma*” のスロバキア語から日本語への筆者訳。

※³ 分類の簡略化のため、動詞的シンタグマと (示差的) 対立関係にある他の非動詞的シンタグマを一括して名詞的シンタグマとした。

※⁴ ☞ 記号は、観察・分析結果を示す。以下、これに従う。

※⁵ 斜字体の部分は、限定的シンタグマでは限定要素を、叙述的シンタグマでは叙述要素を、並列的シンタグマでは並置要素を、それぞれ表示する。以下、同様。

※⁶ 相互限定的シンタグマおよび縮約化並列的シンタグマについての詳細は、Pauliny (1981) を参照。

※⁷ 不定詞文シンタグマは、非人称不定詞文に対応するシンタグマを指し、議論の整合性のため、筆者により設定された用語である。なお、非人称不定詞文についての詳細は、本城 2011 を参照。

3. 結論

スロバキア語のシンタグマの諸タイプおよび幾つかのバリエントの具体例を比較分析した結果、以下の傾向的特徴が抽出された。

- i. 限定的シンタグマは、一致や結合価格支配など主な統合手段が文法化されていることから、シンタグマ3体系の中では安定し、“中心的”地位を占めている。機能的には、“限定/補足”される要素が Tr 要素に、“限定/補足”する要素が Rh 要素になる。
- ii. 叙述的シンタグマは、二要素文シンタグマが“中心的”な形式で、単一要素文シンタグマは“周辺の”形式と見なされることから、一致による統合手段がかなり文法化されている。他方、不定詞文シンタグマや間投詞文シンタグマにおける ϕ 主語使用は制約的（不安定）で、“周辺の”手段と見なされる。機能的には、“叙述”する要素が Tr-Rh 要素に、“叙述”される要素が Th 要素になる。
- iii. 並列的シンタグマは、最上位の形式で、並列接続詞が主な統合手段である。他方、並列接続詞の省略は制約的（不安定）で、“周辺の”手段と見なされる。機能的には、“並置”する要素が Tr-TrPr 要素に、“並置”される要素が Rh-RhPr 要素になる。
- iv. 相互限定的シンタグマ（“周辺の”なバリエント）や限定的シンタグマへの縮約化並列的シンタグマ（両義的なシンタグマ形式）の移行が生じつつある。機能的には、Tr 要素からの形式的分化の結果、TrPr 要素としての多様な接続詞が発生しつつある。

参考文献：

- Bělič, J. et al. (1964): *Slovenština (Slovak language)*, SPN:Praha.
- Ej: *Encyklopédia jazykovedy (Encyclopedia of linguistics)* edited by J. Mistrík et al., OBZOR:Bratislava, 1993.
- 本城 二郎 2011: 「スラブ語の単一要素文の機能構造一文要素の形式的分割性と機能的分割性の諸タイプを中心として」, 『ニダバ』第40号.
- Mistrík, J. (1983): *A Grammar of Contemporary Slovak*, SPN:Bratislava.
- Oravec, J. et al. (1986): *Súčasný slovenský spisovný jazyk - Syntax* -, SPN:Bratislava.
- Pauliny, E. et al. (1955): *Slovenská gramatika (Slovak Grammar)*, OSVETA:Martin.
- Pauliny, E. (1981): *Slovenská gramatika - Opis jazykového systému (Slovak Grammar - Exposition of Language System)*, SPN:Bratislava.
- Svoboda, A. (1989): *Kapitoly z funkční syntaxe (Chapters from Functional Syntax)*, SPN:Praha.
- Vachek, J. et al. (1960): *Dictionnaire de linguistique de l'École de Prague (Dictionary of the Prague School of Linguistics)*, Spectrum Éditeurs:Utrecht.